

飛鳥資料館春期特別展のご紹介

「キトラ古墳壁画十二支一子・丑・寅」

平成20年4月18日(金)～6月22日(日)

うち5月 9日(金)～5月25日(日)

キトラ古墳壁画 子・丑・寅 特別公開

今年も春の訪れとともに、飛鳥資料館では、文化庁のご協力のもと、キトラ古墳壁画に関わる特別展を開催いたします。一昨年の白虎、昨年の玄武にひきつづき、今年のテーマは十二支です。

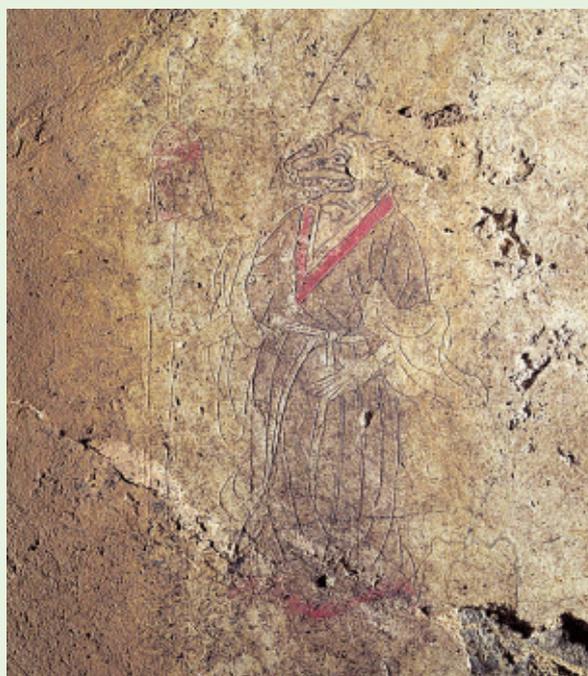
キトラ古墳の十二支像は、平成13年12月の第4次内部調査で確認されました。この十二支像は、頭が動物で、人の体をもつ、いわゆる獣頭人身十二支像です。日本の極彩色壁画古墳である高松塚、キトラ両古墳のうち、キトラ古墳にだけ描かれており、その特徴の1つとなっています。

東アジアの古代世界に目を向けると、獣頭人身十二支像は、中国の隋代に長江中流域で出現し、唐代や韓国の統一新羅時代に盛んにつくられました。その姿や性格には、地域色や年代差を見出すことができ、キトラ古墳壁画のルーツを探る有力な手がかりといえます。

今回は、中国の十二支鏡、道教鎮墓石や十二支俑、韓国慶州の金庾きんぐ信墓、掛陵けりょう、遠願寺石塔など

に彫られた十二支の拓本と写真、奈良の隼人石の拓本や栄山寺の十二神将像(重要文化財)などを展示し、東アジア各地の十二支に迫るとともに、キトラ古墳の十二支像との比較を試みます。獣頭人身十二支像を通じてみえてくるキトラ古墳壁画の真実をお楽しみください。

(飛鳥資料館 西田 紀子)



キトラ古墳壁画 寅

■ 記録

埋蔵文化財担当者研修

- 遺跡整備活用課程
平成20年 1月15日～25日 14名
- 竪穴建物遺構調査課程
平成20年 2月4日～8日 10名
- 地質環境調査課程
平成20年 2月21日～28日 16名

現地説明会

- 飛鳥藤原第150次(石神遺跡第20次)
平成19年12月15日(土) 867名
- 平城第423次(東院地区中枢部)
平成20年 1月19日(土) 819名

飛鳥資料館展示

冬期企画展「飛鳥の考古学」

平成20年 1月4日(金)～2月3日(日)

巡回展示「絵でみる考古学-早川和子原画展」

平成20年 2月9日(土) から3月2日(日)

○ギャラリートーク

平成20年 2月23日(土) 早川和子

高松塚古墳シンポジウム

平成20年 1月26日(土)

主催：文化庁、国立文化財機構奈良文化財研究所・東京文化財研究所、奈良県教育委員会、明日香村

於：橿原文化会館大ホール

第一部：「石室解体レポート」

第二部：パネルディスカッション

平城宮跡歴史文化講座(第4回)

(NPO平城宮跡サポートネットワークと共催)

平成20年 1月27日(日) 午後1時～

於：平城宮跡資料館講堂

「木簡からみた文字文化」

東野 治之 奈良大学教授

編集「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp/>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2008年3月